

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090600097		
法人名	社会福祉法人 久仁会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 アップルヒル		
所在地	群馬県沼田市下沼田町西沢501番地		
自己評価作成日	令和7年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	令和8年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

沼田市北部の田園の中に位置し、非常にのどかな環境の下で共同生活を営んでいます。ご利用者様、ご家族様に安心安全なサービスを提供するとともに、日常のご利用者様の些細な変化を職員一同「気づき」を大切にしながら職員間でのコミュニケーションやヒヤリハット等で随時、情報共有を行っています。ご利用者様のできる事(掃除、洗濯物たたみ、食器洗い等)に取り組んで頂いてます。地域との交流では、夏祭りへの参加や町内の文化祭へ利用者様が制作された作品の出展しています。また外出行事では初詣、お花見、沼田祭り、花火大会、リンゴ狩り、紅葉狩り等に参加しています。室内行事では昼食作りやおやつ作り、慰問行事等に取り組んでいます。母体である特別養護老人ホームまごころと連携を図りながら映画、習字、音楽療法等にも参加しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は区長や民生委員などをはじめとする地域の方と、運営推進会議の案内を対面でお渡しする機会を持ち、野菜をいただくなどの関係を構築することで、運営推進会議での意見交換につながっている。利用者の支援においては、利用者がその人らしく生活できるよう、居室で過ごしたい利用者にはそう過ごせるよう、生活リズムを崩さないように注意をしつつ声かけやききかけづくりをしつつも、強制することなく自由に過ごせるようにしている。また、モップかけをしたり、干し柿づくりをしたりなど、できる力に着目して生活のなかで活躍できる場面をつくっている。あわせて、家族との関係性の継続にも心を配り、管理者を中心に職員が介入することで適度な距離感を持つことや家族の気持ちに寄り添うことで、家族と利用者の良好な関係づくりにつなげている。また、ペットも大切な家族の一員と捉えて、ペットとも面会可能としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に掲示しており、各職員がいつでも目を通せる状態になっている。また、定例会議などで職員に事業目標と同じく周知を図り、共有できる環境づくりに努めている。	理念を実現するために、具体的な目標を掲げ、そのための戦略や戦術におとしこみ、具現化できるよう取り組んでいる。さらに半期に一度見直しを行い、振り返りの機会としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として回覧板で地域の催事を把握している。令和7年度は地域の文化祭に出展した。	地域の文化祭にテーマにそった作品を出展し、見学に出かけている。回覧板を利用者とともに渡しに行くなど、利用者が地域での暮らしを感じられるよう努めている。会議の年間計画や案内などを都度手渡しに伺う際に、関係作りに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で認知症の人が家族に居た場合、その人の理解や支援の方法についての相談窓口を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和7年度は2ヶ月に1回定期的に開催し頂いたご意見をサービスに反映できた。	区長や民生委員の他、地域住民、家族代表も参加し、事業所を地域の資源としてさまざまな意見交換が行われている。そうしたなか、事業所での書初めから、書道教室をしている方の紹介があるなど、サービスにつながる情報提供がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば相互間で連絡、協力し事業の発展に努めている。	市は、必要なアドバイスをいただける機関として、加算の問い合わせや算定などについて確認を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体の特別養護老人ホームまごころに身体拘束委員会を設置しており定期的な会議が行われている。会議内容を職員間で共有し各職員には点検シートやチェックリストを配布している。	身体拘束はしない、そのために、職員は年に1回自己診断を行い、振り返りと再確認の機会としている。言葉による拘束に注意を払い、行動を止める言葉かけではなく、問いかけの言葉にするなど、言い換えを全職員に伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者様への敬語の徹底を行い接し方にも敬意を持つよう心掛けている。法定研修の中で虐待についても学んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度の利用者は居られないが職員間での話し合いや法定研修で制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書締結時には重要事項説明書に基づいてご説明を行いご理解を頂いてから署名、押印を頂いている。契約時にはご家族の疑問や質問が無いかを確認しながら契約を進め質問があればその都度ご説明を行いトラブル防止を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご利用者様の近況をお伝えしご家族からのご要望もお聞きし、職員間で共有を行い実行できるものは運営に反映している。	家族の意見を聴取するには関係性を構築することと考え、変化があったら必ず報告するように努めている。そうしたなか、家族と利用者が自宅で過ごせるように利用者を送迎するなど、きめ細かい支援につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回 職員全員が出席しての定例会議で意見を言える場を設けており日々のミーティングでも随時意見を聞いている。	意見のない職員はいないと考えおり、会議では職員一人ひとりが意見を言えるようにしている。また、1対1でも話を聞くようにしている。その他、年2回人事考課の一環として面接も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得においてはキャリアアップも実施し勤務条件の見直しを行っている。また毎年の健康診断と夜勤業務を行う職員はもう一度定期検診を受けて頂きストレスチェックも全職員にお願いしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画をたてて外部講師を招いての内部研修の実施や資格取得を目指した外部研修への参加も計画していたが令和6年度は外部研修が未実施である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内で地域密着同事業所会議を毎月行っており情報交換を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にご家族からの同意を得て利用者様のアセスメントを作成している。その際にご本人やご家族の希望、要望をお聞きし安心した生活が遅れるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込みや施設見学の際に施設の説明を行うだけでなくご本人やご家族のご要望をお聞きし調整を図れるように配慮している。利用開始後もご希望に添えるよう配慮を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お申し込みや見学の際にご本人が必要としている事、ご家族の思いをお聞きしその方に合った場所(他施設も含む)のご提案ができるよう連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事はご本人に行って頂きできない事をお手伝いするように努めている。職員は常にご利用者様が何を希望されているかを考えて行動するよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご契約時にご家族との外出、外泊が自由にできる事をお伝えしている。ご家族とご本人の関係が変わりなく続けられるよう支援を行いご家族が気軽に来られる場所となる用心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、ご友人との関係性が希薄にならないよう面会だけでなく電話の取次ぎも行っており交流を続けている。	面会や電話の取次ぎなど関わりが途切れないように支援しつつ、利用者と家族との距離感を管理者を中心にする事で適度に保つことができ、良好な関係となるよう取り計らっている。ペットも大切な家族の一員と捉え、面会ができるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団でのレクリエーションや体操にも取り組んでいる。職員は利用者様の人間関係や性格を把握しトラブル回避の為、座席の変更を行ったり同じテーブルについて会話が成り立つよう援助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除時にはご家族に対して相談があればいつでも対応する事をお伝えしている。相談を受けた場合には支援できる体制を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、サービス担当者会議を開催しご利用者様、ご家族様の希望把握に努めている。施設サービス計画、介護計画書にも反映させている。また担当職員へ意見聴取や日々の様子を聞き取りしている。	利用者の思いは、担当職員を中心にして、湯舟に入りながらや、1対1になった時などの機会を捉えて掴んでいる。居室で過ごしたい利用者には、生活リズムを大切に呼びかけの声かけをしつつ、意向を尊重するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様から聞き取りアセスメントシートを作成している。作成したアセスメントシートはカルテ内で閲覧できるようにし職員が周知できるようになっている。また定例会議でも周知するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定例会議内でご利用者様ひとりひとりについて情報を共有している。ご利用者様お一人お一人の尊厳を保持しご本人にあった時間を過ごして頂けるよう配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員とご利用者様についての意見交換を3ヶ月に一度介護計画を見直している。随時ご家族にも近況報告を行いご要望をお伺いするようにしている。	ケアマネジャーは日常業務のなかで利用者の状況把握をして、状態変化を中心に家族とのやりとりなどを整理した記録を心がけている。また、職員の意見や気づきをもとに、モニタリングや見直しにつなげている。	職員の意見をもとに作成した介護計画を、職員が目にする機会を増やすことで、さらに介護計画を意識した支援につながることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス実施記録のケース欄に記録を残すとともにその日その時の問題点を共有している。電子カルテ内に保存された突発記録を閲覧する日々の問題行動を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の希望に応じた個々に合ったレクリエーション活動を行ったりリハビリを行っている。集団援助だけでなく個別援助も取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域神社への参拝や公民館での作品の展示を行っている。運営推進会議で地域住民の方々に参加して頂き地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現状は入居者様全てが訪問診療を受けられており月に2回の訪問診療を受けられており必要な検査があれば受診支援を行っている。	2週間に1回訪問診療があり、受診の際はケアマネジャーが立ち合い、日頃の状態などを報告することで、適切な医療提供につなげている。その結果は、申し送り記録表に記録して職員間で情報を共有している。急変時などは、協力医に相談し指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時に看護師に対して必要な情報をお伝えし適切な指示で受診や検査が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には主治医に対して適切に情報提供を行い退院時はサービス変更も見据えてサービス担当者会議を実施している。入院中も定期的に状態確認に訪問し退院調整をMSWと行ってスムーズな退院を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し同意を得ている。ご利用者様に変化が見られた際には早期に受診し医師からの指示を伺いながらご家族と相談を行っており「緊急時医療に対する確認」も頂いている。	浴槽を跨げなくなるなど事業所での生活が困難になり利用者の負担になった時を目安に、法人内の他施設の利用も含めて相談しており、一緒に見学に行くなど支援している。命をお預かりしているという認識で迅速な対応ができるよう、医療に対する確認を行い掲示している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1～2回救急蘇生・AEDの訓練を実施し全職員が対応できるようにしている。緊急時に速やかに医療機関へ連絡できる体制を作っておりAEDの設置場所もホールの見えやすい場所に設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災訓練を消防署や防災業者の立ち合いで行っている。定期的に消火器や火災報知機の点検も実施し消防署の立ち入り調査も受けている。	年2回避難訓練を行い、居室コンセントからの出火想定で利用者も参加して行っている。避難完了の目印に枕を置くなど、工夫している。水や食料など3日分を準備している。次年度の消防士立ち合いの避難訓練では、近隣の方を招待する予定がある。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様への声掛けは各職員が敬意をもって行うよう周知している。入浴や排泄時には扉やカーテンがきちんと閉められている事を確認し不快感を持たれない様にしている。	日々の支援において一番大切なのは言葉かけと考え、利用していただいているという認識で、丁寧な言葉かけに努めている。慣れてくると、親しさがまし線引きができなくなってしまうので、常に自分がその立場であつたらと置きかえて行動を改めるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別の外出支援や入浴時間(午前・午後)をご利用者様の希望で決めている。活動内容をご説明し参加の希望を伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の気持ちを最優先しご希望に添えるよう支援を行っており個人の活動も尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	就寝前にはパジャマに着替えて頂き生活にメリハリをつけて頂いている。入浴時の衣類準備もご利用者様がご自分で身に着けたいものを準備されるようにしている。訪問理美容に対応しておりご希望の方は毛染めもなさっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人の決定で冷凍食品を湯煎あるいは流水解凍で提供している。ご飯は施設内で炊いている。食事前のテーブル拭きや食器洗い、食器拭きはご利用者様が自ら行って下さる。	基本は冷凍食品会社からの調理済の料理を提供しているが、季節の頂き物を使って1品増やしている。健康管理を意識しつつ、好きな味を楽しむことが重要と考え、時々きゅうりの漬物も提供している。食事中は食事に集中できるよう、テレビは消している。職員が工夫し、おひなさまに見立てたおやつを提供などを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは送られてくる冷凍食品会社が管理している。食事量や水分量はチェックを行い記録しており日々の健康状態に気を配れるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアを必ず実施している。自立、一部介助とその方に合った支援を行っている。月に1回まごころから歯科衛生士が口腔ケアを行いアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立でトイレ使用が行えるようその方に合った声掛けを行っている。夜間は転倒リスクを避けるため必要な方にはPTイレの設置も行っている。ご本人が不快に思わない声掛けとパットの確認にて清潔を維持している。	おむつを利用をしている利用者はおらず、トイレでの排泄が基本となっており、失敗がないように利用者の様子をみながら声かけをして誘導している。運動量、水分量などに注意を払い、薬の処方を減らすよう努め、自然排便ができるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や体を動かすレクリエーション、歩行運動で活動量を増やしている。定期的に水分補給の声掛けを行い食事、水分の摂取状況を把握している。薬を服用されている方には排便状況に応じて主治医の指示に従った服薬調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の設定は行っているがご本人の体調や希望によって延期したり午前午後の入浴を選んで頂けるようにしている。また変わり風呂を毎月行い気分転換して頂いている。	入浴は午前中としているが、利用者の希望で午後に入浴している利用者もあり、事業所の都合にならないよう要望にあった支援を行っている。1対1での入浴を基本に、同性介助を行っており、羞恥心の配慮に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温をその方に応じた快適温度に調整し日中の活動量を増やして頂けるよう声掛けを行い夜間の良眠に繋げている。食後や入浴後の仮眠も長くなり昼夜逆転を予防し生活のリズムをが整えられるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をカルテの中で閲覧できるようにしており職員が確認できるようにしている。与薬時も呼名呼称を行い飲み込みまでの確認を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般をご自分の仕事として自ら行って頂ける支援を行っている。床掃除、テーブル拭き、食器洗い、食器拭きと各自が得意とするお手伝いを行って下さる。回覧板を隣家まで届ける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近所を散歩したり近くのコンビニまで歩いていく事もある。またご家族が車をお持ちでない場合はご自宅までお送りしての外出支援を行っている。	回覧板を利用者とお渡しに行ったり、近隣の散歩に出かけたりしている。天気がよい時には、ほうき草や小菊など花見に出かけ、外気にあたる刺激をたのしめるようにしている。法人の他施設に訪問して、戸外に出るとともに交流の機会もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭についてはご利用者様の状態に応じてご家族様と相談して対応している。自己管理されている方に買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望がありご家族も了承されている方には電話の取次ぎ支援を行っている。手紙については必要物の買い出しや投函支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は職員により清潔に保たれている。ホールや居室の床は利用者様も手伝って下さる。室温はエアコンと床暖房を併用し1年を通して快適な温度に保たれている。ホールの窓からは竹林と季節の花を見え景色も良い。	吐き出しの大きな窓から日差しが入り、外の景色が見られる。また、季節にあわせた飾り付けが施されている。利用者の人間関係を鑑みて気持ちよく過ごせるよう、席などに注意している。テレビは利用者が見たいものを見られるように、ソファの位置を変えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のホール内にソファを設置しておりテレビをご覧になる方が利用されたりBGMを聴かれる方が利用されたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に備え付けのベッドキャビネット、吊り戸棚があるが愛用の衣装ケースや布団、毛布、テレビ等を持ち込まれたり茶碗や湯呑も自宅から持ち込まれている。	居室で過ごしたい利用者は居室で過ごせるように、きっかけづくりはするが、無理に共用空間で過ごすことを強要しないようにしている。利用者が雑巾をモップの先につけて掃除をするなど、利用者が好む方法で掃除をすることで気持ちよく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー化されており廊下やトイレも車いす使用でも問題なく使用できる。居室入り口には表札を掲げてあり間違えて他者の居室に入る事が無いようにしている。		